

# DO-IT Japan

DIVERSITY,  
OPPORTUNITIES,  
INTERNETWORKING &  
TECHNOLOGY

障害のある学生の進学と就労への移行支援を通じたリーダー養成プロジェクト



# What is DO-IT Japan?



## DO-IT Japan とは？

DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan は、テクノロジー活用を主として、「自らのニーズに適した方法で学ぶこと」、「初等教育から中等教育や高等教育へ進学すること」、「希望するキャリアにつながる力を育てること」に関連する様々なプログラムの提供を、産学連携により、2007年から継続的に実施しています。

DO-IT Japan は、これらのプログラムを通じて、障害のある児童生徒・学生たちが、将来、社会で活躍するリーダーとなることを期待しています。彼らがインクルーシブな社会の実現へ向けて、個々の違いを認め合い、対話し、共生を試行錯誤する営みの先に、インクルーシブな未来が生まれることを願っています。

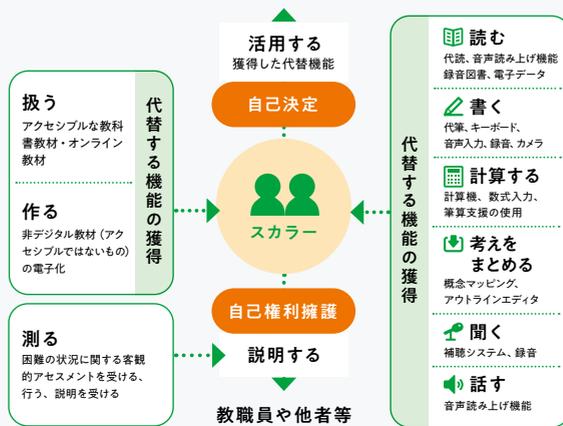
## DO-IT Japan の重要なコンセプト

DO-IT Japan は、「自己決定」と「自己権利擁護（セルフ・アドボカシー）」を大事にしています。

障害のある若者が、自分に合った学び方や生活を実現するためには、自分自身が多様な考え方や方法を知り、自分に合ったものを決めて選び取ることになります。テクノロジーの活用など、他の人と異なる方法を学校や職場に認めてもらうためには、相手や周囲にその必要性を説明し、配慮を求めていく「セルフ・アドボカシー」が必要とされる時もあります。

自分が求めたい配慮は何か？相手にどのように説明できるだろうか？それらを考え、行動に移していくことが、彼らの社会参加の幅と可能性を広げていくと考えています。

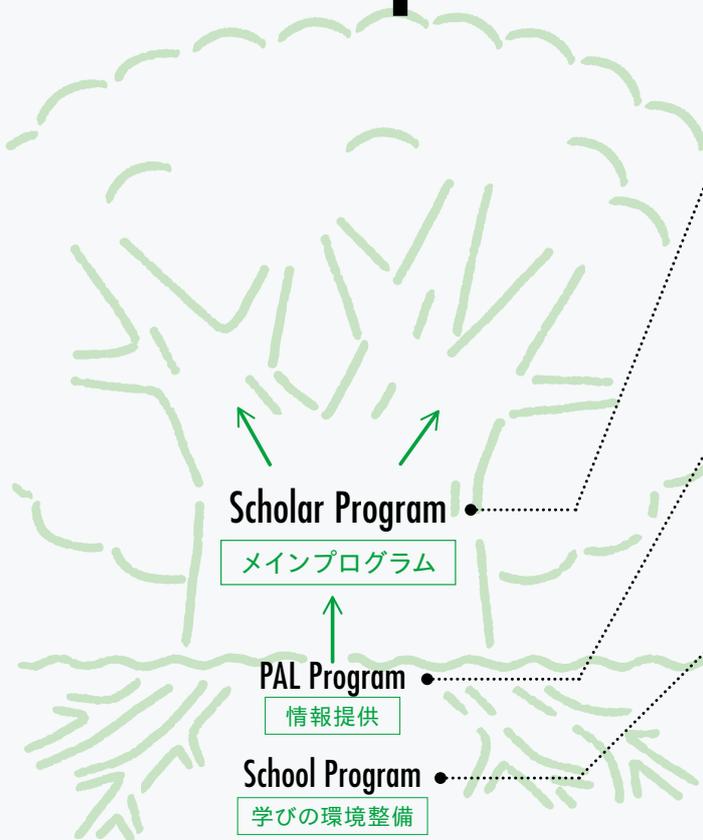
本人自身が学びたいこと達成したい目標



# DO-IT Japan Program

## DO-IT Japan の3つのプログラム

DO-IT Japan は、大きく分けて3つのプログラムから構成されています。情報を広く届け、障害のある児童生徒・学生をエンパワメントし、彼らの可能性を最大化します。



## Scholar Program スカラープログラム

メインプログラム

障害や病気のある生徒・学生の高等教育への進学と、その後の就労への移行支援を通じ、将来の社会のリーダーとなる人材を育成することを目的としています。毎年春に募集が開始され、選抜された生徒・学生は、「スカラー」と呼ばれます。スカラーは、テクノロジーの活用を中心的なテーマに据えた様々なプログラムに、年間を通じて、継続的に参加することができます。

## PAL Program パルプログラム

情報提供

障害のある児童生徒・学生とその保護者へ向けて、テクノロジーの活用方法や事例、イベントなど、情報を届けることを目的としたプログラムです。ウェブサイト、常時登録することができます。

## School Program スクールプログラム

学びの環境整備

学校・教員を対象として、DO-IT Japan が共催・協力企業とともにプログラムや必要な機材等を提供しています。障害のある児童生徒・学生の学習・社会参加を支援・促進するため、学校内にインクルーシブな学習環境を整備することを目的としたプログラムです。

# Scholar Program

スカラープログラム

スカラーは、夏季プログラムにて、「テクノロジーの活用」を軸に、「自分自身や障害についての理解」、「セルフアドボカシー」、「自立と自己決定」などのテーマに関する活動に参加します。その後、オンラインメンタリングやギャザリングなどのオンライン・オフラインでの活動、海外研修などリーダー養成プログラムへの参加など、年間を通じたプログラムに参加することができます。

## 夏季プログラム



多様な価値観をもつ社会人、学生との交流・意見交換



大学体験



自立と自己決定、セルフアドボカシー、リーダーシップをテーマとしたセミナーやワークショップへの参加



最先端のテクノロジー体験



一般公開シンポジウムへの参加と情報発信

## 専門家への質問・相談



## 年間プログラムスケジュール

※プログラム内容は、毎年変更します



学びへの強い希望、社会に向けた発信力とリーダーシップを期待しています。

- ▶ テクノロジーを活用した多様な学習方法を知り、学習や生活で実践を希望していること
- ▶ DO-IT Japan プログラムの参加を強く希望していること
- ▶ 進学・就労へ向けた意欲があること
- ▶ 自分の興味や関心のある物事について探求していること
- ▶ DO-IT Japan が目指す、多様性理解を広げることに関心があること、またその活動に向けてリーダーシップを発揮できること

## プログラムへの参加

毎年春に参加者が公募されます。書類選考、面接選考を通じ、スカラーが選抜されます。



## 企業訪問・インターンシップ



## ギャザリング・イベント参加



## 海外研修



## オンラインメンタリング

- ・メーリングリストでの情報交換
- ・オンラインミーティングへの参加



# PAL Program

パルプログラム

PAL (パル)プログラムは、障害のある児童生徒・学生とその保護者へ向けて、テクノロジーの活用方法や事例、イベントなど、情報を届けることを目的としたプログラムです。ウェブサイト常時登録することができます。登録すると、毎月月末に発行される、事例などを紹介したメールマガジンの講読、年末に開催される PAL 向けのセミナーに参加することができます。

## ■ 登録の情報 (2019年11月現在) 登録者は、全都道府県、及び、海外からの登録があります。

大学生：7 大学院生：1

学年内訳 (人)

総計：2,777人

小学生：1,104

中学生：907

高校生：522

その他  
236

## ■ メールマガジンの発行

「勉強でどうやってタブレットを使えばいいのかな?」、「学校での介助はどんな方法を使っているのかな?」、「聞こえにくかったり集中するため、どうテクノロジーを使えるかな?」。

DO-IT Japan でよく受けるこのような質問とその回答を、事例を含め、メールマガジンとして発行しています。参加可能なイベントも情報として届けています。



### トピック (一部抜粋)

- ☑ 学習を支援するテクノロジーの利用方法
- ☑ 学校や試験での配慮事例
- ☑ おすすめ映画や書籍についてのコラム
- ☑ DO-IT Japan によく寄せられる質問事項と回答
- ☑ DO-IT Japan からのお知らせ、その他お知らせしたいイベント・情報案内

## ■ PAL 向けセミナーの開催

年末に、PAL 向けのセミナーを開催しています。DO-IT Japan スカラープログラムに参加した生徒・学生 (スカラー) が、自分の学び方や自己決定、進学移行支援について話題提供を行い、質問を通して、参加者と意見交換する場としています。



## PAL プログラム登録

登録は DO-IT Japan ウェブサイトより常時行っております。  
(インターネット上で登録できます)



PAL プログラム登録  
ウェブページへアクセス!

PAL 登録フォームに  
参加者情報を登録

登録したアドレスに  
完了メールが届けば完了



# DO-IT Japan DATA

2019年11月現在

## ■ スカラーの人数と進路

スカラー総数

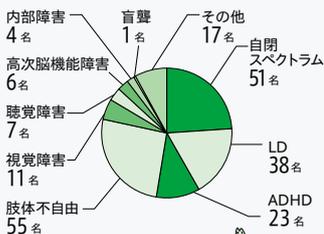
146名



大学進学 96名  
大学院、  
専門学校進学 13名  
就職 34名



## ■ スカラーの障害内訳 ※重複あり



## ■ スカラーの出身地



## ■ DO-IT Japan スカラーが得た入試における配慮事例

入試の種類	年次	事例	実施機関	
高校入試	2016年	代筆	[公立高校・5教科]	
	2011年	代読による問題文の読み上げ	[公立高校・5教科]	
	2015年	PCを用いたキーボード入力・解答	[県立高校・5教科]	
	2016年	PCの音声読み上げ機能を用いた問題の読み上げ PCを用いたキーボード入力・解答、計算機を持ち込み・使用、代筆	[服飾系専門学校・2教科、小論文]	
	2017年	レイアウトの変更、印刷用紙の色の変更、 PCを使った英語の問題文の音声、読み上げ	[公立工業高等学校]	
大学入試・センター試験	2007年	PCを用いたキーボード入力・解答	[大学入試センター、国立大学・一般入試]	
	2010年	PCを用いた数式入力ソフトの使用	[大学入試センター、国立大学・一般入試]	
	2013年	PCを用いた数学、物理、化学の1.5倍の時間延長、代筆	[国立大学・推薦入試]	
	2016年	PCを用いたキーボード入力・解答、代筆 特色入試の参加・実施	[国立大学入試センター、国立大学・推薦入試・一般入試] [国立大学]	
	2019年	電卓を持ち込み・使用	[大学入試センター・国立大学]	
	LDのある生徒	2009年	1.3倍の時間延長 ※高次脳機能障害によるディスレクシアのある生徒。次年度より、 大学入試センターの配慮区分に「発達障害」が加わる	[大学入試センター]
	2011年	PCを用いたキーボード入力・解答	[国立大学・AO入試(小論文)]	
	2015年	代読による問題の読み上げ	[大学入試センター、私立大学・一般入試]	
	2016年	PCを用いたキーボード入力・解答	[私立大学・推薦入試(小論文)]	
	視覚障害のある生徒	2016年	代読による問題の読み上げ	[大学入試センター]
	難病のある生徒	2018年	特別な補助器具の持ち込み・使用	[大学入試センター・国立大学]

※その他、時間延長、別室受験、必要な用具の持ち込み許可等の配慮の実例あり

## ■ メディア掲載

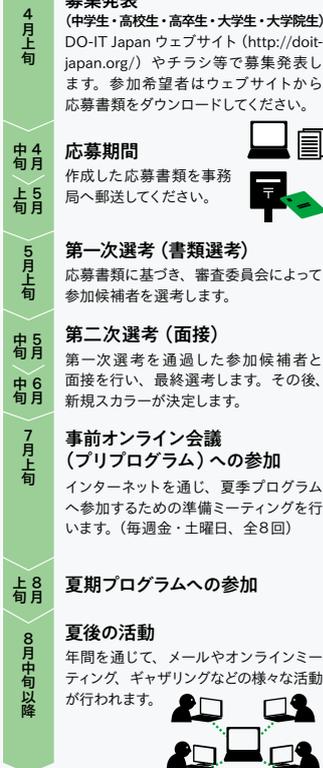
- ・2018/11/06,13 朝日新聞 教育「障害者への「合理的配慮」を考える」上,下
- ・2018/11/16 読売新聞 医療ルネサンス 子どもを守る1/5「大学志す特別支援校生」
- ・2018/12/01 朝日新聞 「合理的配慮」を考える(7)
- ・2019/01/18 毎日新聞 総合「センター試験 障害者配慮」
- ・2019/05/13 教育家庭新聞 「セルフアドボカシーを身につける」
- ・2019/09/23 朝日新聞 教育「障害ある子の支援 VR どういう」

※その他、  
多数掲載あり

## ■ 受賞歴

- ・2011年 第42回報賞(特別支援教育部門)
- ・2011年 文部科学大臣奨励賞受賞

## スカラープログラムへの応募の流れ



お問合せ 153-8904 東京都目黒区駒場 4-6-1  
東京大学先端科学技術研究センター  
3号館 311号室 DO-IT Japan 事務局

[Tel & Fax] 03-5452-5228  
[Mail] [toiawase@doit-japan.org](mailto:toiawase@doit-japan.org)  
[Web] <http://doit-japan.org/>



寄付の  
ご案内

DO-IT Japanの活動は、皆様のご協力  
ご支援によって支えられています。  
(詳しくはウェブサイトをご覧ください)

